



自然観察

No.145

2025.3月

目次

- ウォッチングレポート..... 2
- フィールドニュース 6
- 講演会のご案内 7
- 2025年度総会のご案内 8
- 2025年度総会議案 2024年度事業報告 9
- 同 2025年度事業計画(案) 12
- シリーズ「一人一 観察協議会の歩みを振り返って」 13
- さあー 身近な自然を観察しましょう..... 14
- 編集後記・連絡先 16



エゾエンゴサクの群生

ウオッチングレポート



「秋の錦大沼」観察会 2024/10/6 秋の草花とキノコ

苫小牧市 白崎 均

ようやく涼しくなり、体調が戻ってきたようで、みんな元気に参加しています。紅葉が始まりかけているようで、ツタウルシの葉が赤くなり始めています。

今年はドングリの実が豊作で地面にバラバラとたくさん落ちています。当地は火山灰地であるためカツリバナの実が赤く目立ち楽しませてくれます。またナツハゼの黒い実も目に留まります。今回はキノコがメインで数多くの種類が生えていて、キノコに詳しい会員さんに種別を訪ねていました。

一般の人がキノコ狩りにたくさん入っていますが、私たちの目的は観察ですのでルールを守っています。

小樽市 「長橋なえぼ公園」観察会 024/10/27 生き物たちの冬ごもり

小樽市 松井 典彦

雲一つ無い好天の中、秋のどんぐりや栗の実、冬芽、北海道の寒い冬を越える虫の不思議な生態などが見られればいいなと思いました。

小樽では自生していないケヤキやブナやチョウセンゴヨウなど樹木が大きく育っています。昨年はブナの大豊作の年で、たくさん落ちていた種が芽を出しているところを観察する事ができました。果たしてこの



ホオノキの木の糸ひき

後どんな成長をするのか楽しみです。

タラノキの冬芽は小さな三角の芽がついていました。ここのエリアはタラの芽採取は禁止。まっすぐに3メートルほどに伸びて誇らしげ。カツラの黄色く色づいた葉の甘い香りの中、フユノハナワラビの胞子、オオウバユリの実の種、ノビネチドリ、サルメンエビネやサイハイランの越冬葉、ツチアケビの赤い実等を見ながら落ち葉を踏みしめての観察会でした。

途中の2本のヤチダモの大木には、残念ながらまだトドノネオオワタムシは見ることができませんでしたが、最後に森の自然館のそばのケヤキでは、ケヤキヒトスジワタムシの第4世代がケヤキに群がっているところを見ることができました。今年は14日にはまだ少なかったワタムシが、一日たつと樹皮の隙間にびっしりと潜り込んでいる様子やケヤキの落ち葉についての虫こぶも見ることができました。

日下部さん提案のコースを試してみましたが、参加者の皆さんにいつもより喜んでいただけたと思います。今年も事故無く1年を締めくくることができました。



ブナの実の観察



トドノネワタムシの観察

札幌市 「秋の北大構内」 観察会 2024/11/3
イチョウ並木とエルムの紅葉を楽しもう

札幌市 須田 節

札幌キャンパスは、すぐれた自然環境と保全の取り組みがなされ、2024年3月に生物共生サイトに環境省から認定されました。今回の観察会は道新に掲載され、大勢の方々が参加されました。時々雨で急激に変わる最近の天候から中断も想定して、観る植物の種類と内容を絞りました。紅葉の仕組みは図解で説明しました。

メアリー夫人の寄贈されたハルニレは、樹洞が出来ても樹皮内側の形成層が生き、119年が経ち、ハルニレは湿潤な肥沃に富んだ環境に育つため、農耕適地の指標にされました。

植物園のシンボルマークになっている絶滅危惧種のクロビイタヤは、20代に植物採集の際に日高の静内で発見し、「*Acer miyabei Maxim*」の学名は、発見者の宮部金吾博士とマキシモビッチ博士の名前に由来します。果実は翼がほぼ水平に開きま



キハダの実

す。アイヌ民族が健胃整腸剤や料理に食されるキハダの実は、何故か鳥に好まれないようで黒い実が鈴なりでした。「苦いけど甘い」という参加の方の感想でした。

中央ローンを流れるサクシュコトニ川は、水源を藻岩浄水場の放流水に変わり、もともと存在した風景を復元すると同時に、キャンパスの生態系自体を再生する親水空間になりました。



ハルニレの空洞



イチョウ並木

この他ヤマグワ、シダレヤナギ、アメリカハナノキ、オニグルミ、ブナ、ヒメリンゴ、ハンノキ、シンジュ、ヤマモミジ、リギダマツ（コース順）

11月3日の北大のイチョウ並木の観察会は、一度行ってみたいと思っていた観察会です。会場について須田さんにご挨拶すると、「今日はテレビ取材があるのよ。」とのことで、須田さんに密着して撮影の様子もを見せていただきました。

この様子は11月23日にSTV「ふるさと再発見」で放送されました。須田さんの長年の指導員の経験、積み重ねられた知識と参加者へのわかりやすい説明がとても素敵で、観るだけではなく五感を活かした自然観察の神髄を感じました。

編集 松井

札幌市「天神山」観察会 2024/12/1
天神山散策と白樺細工を体験しよう

札幌市 鈴木ユカリ

集合場所の地下鉄を出るとすぐに歴史的に有名な道路があり、名称の由来などを紹介すると「ここですかぁ」と驚いた様子が見られました。天神山までは街中を歩くこととなりますが民家の塀にはツタの実がたわわに実り、話すことはやはり食べられるかどうかで盛り上がりました。



また参加者から「柿の木がありますよ」と教えていただき、街中でも充分観察をすることができました。天神山に到着すると深紅のナナカマドが出迎えてくれました。ここでも皆さんのナナカマドに対する思いを語ってくれました。



今回は白樺の皮を使って物を作るため、北海道認定木育マイスター2名をお呼びしました。マイスターからは、樹皮が剥がせるのは6月の末から7月初めの2週間の間しか取れないことや、立ち木からとっても大丈夫なことなど興味深い話をしていただきました。

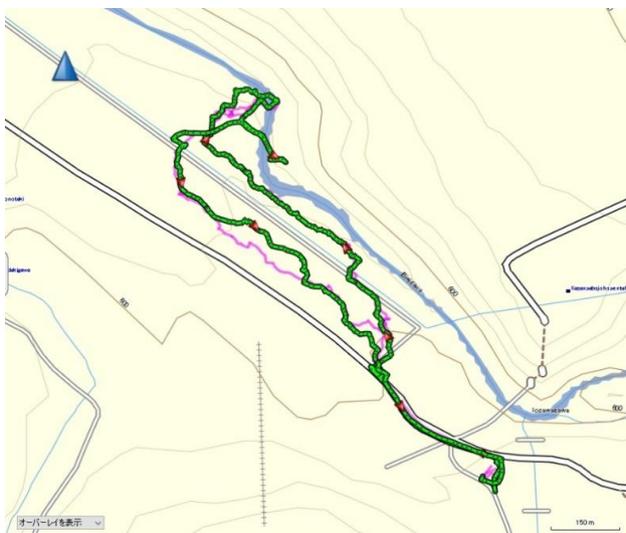
「身振り手振りで伝えて、出来るだけご本人に作ってもらいました」とマイスターからの感想でした。



旭川市「白金温泉スノーシュー」自然観察 2024/2/2
スノーシューで歩く白銀温泉

旭川市 柳田 和美

【概要】



総歩行距離：
3.3Km (図 GPS トラック参照)
標高差：80m
累積標高差：160m
総行動時間：8：50～11：10、
参加者：6名、
自然観察指導員：5名

【開催地・開催時刻設定】

これまで旭川市・東川町での自然観察会開催でしたが、今回初めて美瑛町での開催の運びとなりました。過去同じところを企画するのも何か惰性的な感じがしていたせいもあります。開催時間も旭川市からの距離を勘案して集合現地受付8:30とし、スタートは9:00を予定し、午前中の終了を目指していました。

集合場所は白金温泉公共駐車場に設定せざるを得ないのは、ほかに良い駐車場がないせいもあります。この駐車場には公共トイレが隣接しているのも集合場所選定の重要なファクターでした。言わずもがなの美瑛「青い池」の近場にあることから、スタートが遅いと駐車場が満杯になる恐れが非常に高いので、開催時刻設定は慎重さが求められると思います。韓国・台湾・欧米系・東南アジア系・中国など海外からの観光客がバス・レンタカーで怒涛のように押し寄せるので、日本語より外国語が普通に飛び交うという情景が見られます。当日も9:00頃には駐車スペースがあまりなくなっていました。待機するバスも駐車場には入りきらず、路駐の有様でしたから、開始時間も重要なファクターと言えそうです。

【コース設定とリスク】

最近このコースは人気が出てきて、トレース跡を使えば長靴でも往復可能な場合もあるようですが、原則スノシュー（もしくはスキー等）はあったほうがコース設定の自由度は上がると思います。三方を（作業道を含む）道路に囲まれているため、道路を横断しない限り、道迷いのリスクは少ないと言えます。

【観察会中の画像】



森の入り口から入って 9:40



美瑛川（青い川） 9:59



青い川・折り返し地点 10:02



美瑛川（青い川） 10:01

「観察会の素材を求めて」

遠軽町 相原 繁喜

観察会実施の準備として、普段観察の対象としにくい素材の一つに「キノコ」があると思い、幾つかの素材関連事項を紐解いてみた。

「キノコ」とは、一部の菌類が生殖を行う際に胞子を生産・散布するための構造の内、特に大型のもの呼び名である。

さて、キノコ即ち主な木材腐朽菌には

- ・褐色腐朽菌 (ツガサルノコシカケ・カンバタケetc.)
- ・白色腐朽菌 (カラタケ・シイタケ・タモギタケetc.)
- ・軟腐朽(菌)がある。

では何故、腐朽菌類は木材を腐朽・分解するのかと言うと、それは木材細胞壁を構成する骨組みとしてのセルロースやヘミセルロース(共に白色系)と骨組みを取り囲んで保護するリグニン(褐色)を糖に分解してエネルギー源とするためである。

尚、イメージとして樹木の構造を鉄筋コンクリートの建物に例え、セルロース類は細胞壁の骨組みをつくる鉄筋に、リグニンは鉄筋を周りから覆って保護・固定しているコンクリートに相当すると考えると分かりやすいかも知れない。

褐色腐朽菌は難分解性のリグニンを殆ど改変せず、セルロース類のみを選択的に分解する。それはリグニンに亀裂を入れて(多孔質化)セルロース分解酵素を染み込ませ、すり抜けるようにセルロース類を細かくして吸収するため、リグニンが残った枯死木材はブロック状に裂け、褐色を呈するのである

一方、褐色のリグニンを分解・除去してセルロース類を利用する菌類は腐朽材が白色系の繊維状になるため、白色腐朽菌と呼ばれる。

(1) 褐色腐朽菌



(ブロック状構造)

(2) 白色腐朽菌



(繊維状構造)

(3) 軟腐朽菌



(泥状構造)



更に枯死木の横断面を切ると「^{たいせん}帯線」と言われる茶褐色の菌糸模様(メラニン様境界)を見ることがある。円柱状で軸方向に延び、キノコを作る種類では、栄養源を確保するために菌糸の範囲(立体的、縄張り?)を広め、キノコ作りに備えているのである。

これらを例に、リグニンを分解する白色腐朽菌の登場で木質が分解され、石炭紀(約3億年前、古生代)が終焉を迎えた可能性があるとし唆されたり、菌類が共生と分解機能を発揮して自然循環の一翼を担うなど、キノコが他と繋がる素材視点を探ることでキノコも観察対象にし易くなると考える。

花が少なくなった時季でも、朽ちた木に発生した様々なキノコ(成菌)から、腐朽菌と樹木の内部構造を推測することで、観察の楽しみを増やせるかも知れない。



(ツカゝサルノコシカケ)



(カリラタケ)



(軟腐朽菌)

参考図書(1)「菌類のふしぎ」第2版～形とはたらきの驚異の多様性～ 細谷 剛 編集(国立科学博物館2014)
 (2)「キノコとカビの生態学」～枯れ木の中は戦国時代～ 深澤 遊 著(共立出版2017)

総会終了後に自然観察協議会 40周年記念講演会

総会講演会を行います。「樹木医」の崎川哲一さんにお話をいただくことになりました。自然観察会として樹木医は興味のあるところです。「樹木医から見た自然観察」と題してお話をさせていただきます。

崎川 哲一(さきかわ てついち)さん紹介

石川県生まれ。北海道大学大学院農学院環境資源修士課程修了後、NPOに所属し、こども若者の都市農村交流事業を担当。26才で樹木医を取得。こどもの自然体験や環境教育に取り組む中で、日常からの機会創出の必要性に気づき、木製知育玩具「森のピタゴラス」を開発し、27才で合同会社森のピタゴラスを設立。樹木医としての専門性を活かした木育活動や樹木のコンサルティングを通じて、こども園や児童施設を対象に、こどもと木の接点づくりから環境整備を行う。2022年には札幌市南区にて木育を取り入れた放課後児童デイサービス「もりたび」を開所。



2025 年度 北海道自然観察協議会 総会議案書

総 会 2025 年 4 月 13 日(日) 13:00~14:30 (*受付 12:30~)

場 所 エルプラザ 2F 環境研修室 1・2

総会 次第

1. 開会のことば
2. 挨拶
3. 議長選出
4. 議 事 (議長挨拶含む)
 - (1) 1号議案 2024 年度 事業報告
 - ① 観察部所管事項
 - ② 研修部所管事項
 - ③ 編集部所管事項
 - ④ 事務局所管事項※1号議案の質疑応答及び承認に関すること
 - (2) 2号議案 2024 年度 会計決算報告・監査報告
※2号議案の質疑応答及び承認に関すること
 - (3) 3号議案 2025 年度 事業計画
 - ① 観察部所管事項
 - ② 研修部所管事項
 - ③ 編集部所管事項
 - ④ 事務局所管事項※3号議案の質疑応答及び承認に関すること
 - (4) 4号議案 2025 年度 会計予算
※4号議案の質疑応答及び承認に関すること
 - (5) その他事項
4. 議長退任
6. 閉会のことば

出席される方は、4月3日までに山形まで、電話またはショートメールでご連絡ください。欠席の場合は、議長へ一任とします。

電話番号 090-6267-4961

2025 年度総会議案

1 号議案

2024 年度事業報告

1 観察部所管事項

(1) 観察会について

2024 年度の一般観察会は、37 開催が予定され、3 開催の中止及び3 開催の報告書未着を除き現在(2/23)までに 30 開催が無事終了した。集計、概要は下記の通り。一般参加者数延べ 477 人、指導員参加者数延べ 123 人。一般参加者の年代別では、年代記載者 465 人中、80 代 46 人、70 代 216 人、60 代が 104 人、50 代 47 人、40 代以下 52 人となっている。最終結果は 6 月発行予定の会報に掲載する。なお、各観察会の実施状況は会報・ホームページに掲載中である。

(2) 会計について

例年通り良好に観察会参加費は入金されている。詳細は事務局会計報告を参照のこと。

(3) 傷害保険について

今年度観察会において、事故及び怪我の報告はなく、保険の適用は無かった。

2 研修部所管事項

今年度の研修会は、開催されませんでした。

3 編集部所管事項

(1) 会報発行について

2024 年度発行の会報「自然観察」は、143 号 (6/15)、144 号 (10/15)、145 号 (予定) 計 3 回。また、全国の自然観察指導員連絡会及び関係団体へ会報を送付し、交流を行っている。

昨年度から、会報印刷は市民活動促進センターの印刷機を借りて行っていることで、会報印刷費を大幅に削減できた。

(2) ホームページ (HP) の運営について

HP のアドレスは <http://www.noc-hokkaido.org>

また今年度よりホームページを担当していただいた中村さんにより、新たに Facebook 上に当会のページを作成いただいた。下記のアドレスよりご覧いただきたい。

<https://www.facebook.com/profile.php?id=61561462946121>

4 事務局所管事項

(1) 事務局

① 各種会議等の円滑な運営

i 理事会について

2024/6/2 (日)、2024/9/21 (土)、2025/2/23 (日)、4/13 日 (予定) の 4 回開催された。

ii 総会について (会報 No. 143 号に会計決算・予算及び議事録を掲載済み)

② 入退会者の受付と会員名簿の整理

2025/2/23 日現在 会員数 159 名（内 指導員以外の一般の会員 6 名）

③他団体との連携・協力について

i 高山植物ネットワーク

環境道民会議

ii 講師派遣依頼 今年度は無し

(2) 総務

講演会後の懇親会は、昨年に引き続き中止とした。

(3) 広報

①「観察会の予定表」の配架と情報提供

・配架場所 各地区の自然センターなどに設置。また、観察会で参加者に配布した。

・情報提供 自然ウォッチングセンターのホームページ及びウォッチングガイドに掲載された。(観察部)

(4) 会計→ 2号議案にて報告 別紙

第 3 号議案

2025 年度事業計画

1 観察部所管事項

(1) 観察会について

今年度の観察会実施計画は別表の「2025 年度自然観察会の予定表」の通り(2/23 日現在)であり、34 開催が予定されている。今回掲載以外にも企画があれば、できる限りバックアップするので観察部(山形)へ連絡をお願いする。各観察会連絡担当者の方は、一般参加者名簿、指導員用名簿及び観察会予定表など、必要枚数を観察部山形まで連絡のこと。尚、各観察会で行う下見は、会員同士の交流と研修の場ともなるので有効に活用していただきたい。

(2) 観察会参加費について

観察会参加費については、現行良識の範囲内で、各観察会ごとに決定して良い事としている。各地域ごとに活動財源とする事も妨げるものではない。資料作成などで赤字となることの無いよう参加者数の予想など、これまでの経験を活用し適切な金額としていただくよう希望する。参加費は観察会予定表の参加費欄に記載される。観察会予定提出の際には参加費の記載をお願いする。記載のない場合は 200 円として掲載する。

(3) 実施報告・会計について

①観察会の報告書は観察部(山形)へ送付のこと。また、観察会の活動写真を数枚程度送って頂くようお願いする。写真に参加者が含まれる場合は事前に承認を得るようお願いする。寄せられた報告書・写真は会報及びホームページに掲載されることがあるので了承されたい。併せて、会主催の総会、道庁・植物園観察会、各研修会の報告と写真の提出も宜しく願います。

②保険料などを現金で振り込む場合は観察部会計へ直接送付のこと。

ゆうちょの振替口座への振り込みを利用する方は、会計へ申し出ること。印字済みの振込用紙(振込取扱票)をお渡りする。

※ゆうちょ振替口座番号：2770-9-34461 加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料

(4) 傷害保険について

観察会参加者の名簿が基本となる。名簿の記入後から保険の対象となり、帰宅まで（帰宅径路を大幅に外れない範囲で）有効である。また、指導員の車に乗せて、観察場所を廻る場合でも集合時に名簿の記載があり観察会の参加者であることが分かれば保険の対象となる。

事故が起きた場合は、速やかに適切な処置を行った後に、下記の保険代理店の担当者に連絡し、事務局へ連絡をお願いする。

保険会社代理店：ケイティエス 本間 茂 電話 011-873-2655 日曜、祝日休業
普通傷害保険（エース損害保険株式会社）死亡保険：600万円、入院保険金額：5,000円（180日以内）日額通院保険金額：2,500円（90日以内）

2 研修部所管事項

- (1) 全道研修会 当面、中止とする。
- (2) フォローアップ研修会——（研修部が企画し指導員の力量向上を図る実践的研修会）
現在開催されている観察会の下見日などを有効利用し、研修会を行うなど検討する。

3 編集部所管事項

- (1) 会報発行について
会報「自然観察」は146（6/15）、147号（10/15）、148号（3/15）、年3回発行予定。
- (2) ホームページの運営について
依頼された内容は速やかにアップし、会員へホットな情報を届けるように心がける。
尚、現状2通りのホームページについては、理事会において協議の上どちらか一方に変更することを検討する。

4 事務局所管事項

- (1) 事務局
 - ①各種会議等の円滑な運営
 - i 理事会について
必要に応じて 年4回程度開催予定。
 - ii 総会について（省略）
 - iii 講演会について
 - ②入退会者の受付と会員名簿の整理は会計と連携をしつつ進める。
 - ③他団体との連携・協力について（昨年に引き続き、連携を図る）
 - ・北海道/環境財団（北海道地球温暖化防止活動推進センター）
 - ・北海道/環境道民会議（北海道環境生活部環境政策課環境企画グループ）
 - ・札幌市/環境局（北海道環境生活部環境局）
 - ・高山植物保護ネットワーク（さっぽろ自然調査館内）
 - ・全国の自然観察指導員連絡会・関係団体への会報送付
 - ④事務局業務のスリム化への取組推進
今後の会の継続のために、事務局サイドの業務を整理・分担して、できる限り負担を少なくする工

夫をし、事務局（役員）のなり手が就任しやすい環境づくりに向けて、提案・実行して行く。

(2) 総務・広報

観察会予定表の設置や自然ウォッチングセンターのウォッチングガイドへの掲載などは担当者と連携して活動を進める。

(3) 個人情報について

本協議会では個人情報保護法の対象団体ではないが、保護法の趣旨に基づき入手した個人情報は、観察活動の目的以外には利用しない。また、保有する個人データは適正に取扱い、第三者に提供することはない。会員各位は個人情報の取り扱いに留意し、特に会員名簿は外部に流失しないように願う。

(4) 講師派遣依頼について

団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていく。

(5) 分野別ガイド・備品

①得意分野で、会員からの疑問や地域情報の問い合わせに対応していただける方々。

分野	名前	電話	住所
水生昆虫、魚類	札幌市さけ科学館	011-582-7555	〒005-0017 札幌市南区真駒内公園 2-1
昆虫（甲虫）	堀 繁久	011-571-2146	〒005-0832 札幌市南区北の沢 2 丁目 20-18
植物全般	与那覇モトコ	0133-74-7952	〒061-3211 石狩市花川北 1 条 2 丁目 148

②備品の管理状況

備品	数量	保管先
実体顕微鏡ニコンファーブルミニ	2 台	横山武彦（江別市） ☎011-387-4960
追い込網	2 本	同上
大型旗（120×180）	1 枚	鈴木ユカリ（札幌市）
ポール（折りたたみ式）	3 本	同上
小旗	3 セット	同上

(6) 会計→第 4 号議案にて提案 別紙

(5) その他

懇親会のご案内

日時 4 月 13 日(日)午後 5 時～7 時まで

場所 目利きの銀次札幌駅北口店

札幌市 7 北区北 7 条西 4 丁目 1 の 2 KDX 札幌ビル地下 1 階(TEL011-717-2088)

会費 3, 500 円

申し込み 参加希望者は 4 月 12 日までに幹事の村元までご連絡ください(携帯 090-8374-3179)



シリーズ 「一人」 観察協議会の歩みを振り返って

小樽市 後藤 言行 さん 後編

【教育の中での自然観察】

松井：教育の中での自然観察の難しさってどこですか。

後藤先生：「安全」と「評価」の2つかな。ある程度を自由を生徒に与えた場合、注意を払い指示に従う状況を作ること。小樽商業の生徒は女子の比率が大変に高くそこは机上の学習よりも自然観察の楽しさを感じる中で約束を守ってくれたことが大きいと思う。「評価」はレポートを見てどう評価するかの難しさはどのような基準を設けるかが難しい。あと、受験校ではなかったことがこの様な学びができたことに繋がりますね。

冬場の学習の一つは顕微鏡での観察です。実際に生徒に顕微鏡を扱わせる。ピントの合わせ方でどうしても鏡筒を下げてしまっ
てプレパラートを割ってしまうなんてこともあったけど、こういう失敗も経験してもらえたことは大事なことだと思いますね。

【博物館や道新との協力】

松井：お借りした写真集の中に博物館の研究をボランティアとして活動していたときの写真がありましたけど・・。



後藤先生：観察会に来て貰って、説明をし

てもらったこともあったね。一般の参加者の方と専門家の学芸員の方をつなぐコーディネートが僕がやる。これは、教員の得意分野の一つだと思うのだけれど、我ながらうまくできたと思います。

美智子さん：博物館の研究活動で市民参加のボランティアとして活動しました。桂岡地域でのザリガニの生息調査が始まり。

あと、道新文化センターの講師もやっていて、私は事務局をして、あの頃が忙しかったけど一番楽しい時期でした。



研修旅行にて 前列左から2人目 美智子さん、右隣が後藤先生

【下見の楽しさと大切さ】

松井：小樽地区の自然観察会は下見を必ず行うことにしていますよね。私は、経験が少ない中でこの下見を重ねることで少しずつポイントが分ってきたのですが、これは観察会の基本とっていいのでしょうか。私とても助かっています。

後藤先生：下見はとても大切です。「安全」「知識の拡大」など、たくさん要素があるけど、特に安全には気をつけなるといいます。下見の最後にしっかりと確認しておくことを勧めます。

知識は不確かなものではなく確実なものにしていくこと、知らないことは知っている人に聞く、知っていることは惜しまず伝える。下見で新しいものを発見することが楽しいですね。そして指導員同士で親しく語り合える関係性を作ることが大切で、本番で自分に自信が持て無いことは得意な人に解説をお願いすればいいし、自分が得意なことは積極的に受け持っていけばいいと思います。

【エピローグ】

後藤先生と美智子さんといろいろお話をされていて、最後に「これからの科学進歩の中でITはどんな役に立つのだろうか、何か不安を感じるね」という話になりました。科学技術の進歩をどのように使っていくか、いつの時代でも議論されていることで、今でも地球温暖化に伴う新たなエネルギー源の確保に関してもたくさんの不安を感じていらっしゃるようでした。

「自然観察という活動を通じて、自分たちの身の回りの自然に関心を持ち、これからの大きな課題に関して問題意識を感じる方が増えて言ってくれればいい。その意味からも、これからの若い人たちが参加してくれることを願っている」と言うまとめとなりました。 (松井)

あの鳥達はいづこに!?(前編)



前回は、灌木のニシキギについて紹介しました。今回は、丁度、待ちに待ってやってきた春の到来時期になったので、それに関連したテーマを取り上げてみます。

こう書くと、それを真っ先に感じさせる猫柳の芽吹きとか、フクジュソウ、スイセン等の開花等についての話かと思われるかもしれませんが。

しかし、申し訳ありませんが今回はそうした楽しい話ではなく、ちょっと残念かつ哀しい話をせざるを得ないことをお許し願います。

それは鳥の世界で起きていることで、筆者の30年間にわたる観察の結果、幾つかの種類で急速にその数を減らして来ているという話なのです。

ただこの話は、棲息数を毎年、正確にカウントしたものではなく、あくまでも鳥好きなバードウォッチャーが観察して感じ取った話に過ぎません。この点、ご了解願います。さしづめ動向、推移報告と言った状況の話とも言えませんが、ともかくも以上の点をご了解頂いて早速報告に入ります。

まず筆者の観察場所は、札幌市手稲区の星置地区にある「ほしみ緑地」を中心とした周辺区域です。星置地区は、手稲区の西はずれに位置し、札幌と小樽の境界線に接する所です。南は手稲山山麓に面し、北側は銭函海岸へと続きますが、上記緑地の中を星置川が流れています。

都心まで電車で約30分で行けるという至便な上に山、川などの自然条件にも恵まれているということもあって、恰好の住宅地として以前から脚光の浴びている地区でもあります。

この30年間の推移、特に筆者が住んできた上記緑地近辺の推移を振り返ると、殆どが原野、山林、田畑で、一部宅地が散在するという状況の中で、JRほしみ駅の開設に伴う住宅の建設を皮切りに、緑地・公園(ほしみ緑地、星置西公園、スプリングス公園)の開設、並びに星置川の切り替え等が進められてきました。こうしたいわゆる開発の波によって自然林の伐採、原野の消滅等を通じて自然がかなり失われてきたのです。以下、「目に見えて減ってきた鳥達」として、ヒバリ等の夏鳥と言われる鳥達を10種類ほどを具体的に挙げて、その動向・推移について報告することにします。

【目に見えて減ってきた鳥達】

〈ヒバリ〉

この鳥は、夏鳥の中でも最も早く到来する鳥です。まだらに残雪が残っている4月上旬には到来します。まだ本格的な開発が行われていなかった当緑地・公園近辺では、原野状態の所がかなりあったので、この鳥はかなりいました。



青空をバックに高らかに囀りながら天高く昇る揚げヒバリは、本当に春が来たことを知らせる鳥でした。長かった冬も終わり、春が来たことをしみじみと感じさせる囀りでした。この鳥は、原野というか自然の原っぱの所でしか棲息しないもので、決して人工的に栽培された芝生の所には棲息しないものです。

だから、その後、当地に緑地が出来たり(平成 11 年 1999 年)、原野、田畑が潰されて住宅地等に替わっていくと、その棲息環境が奪われて急速に、その姿を消していきました。今や、僅かに残っている空き地等にかろうじているようで、時折聞く揚げヒバリの囀りを聞くと懐かしさとともに、いつまでその囀りを聞けるか心配になってしまうほどです。

<セキレイ類>

このセキレイ類の中でも代表的なハクセキレイは、この緑地・公園周辺では、たくさん見られました。この鳥も 3 月下旬から 4 月上旬という早い時期に、当地にわたってきた。尻を振り振り歩き回る姿は、中々愛嬌のあるものでありました。この鳥は、夕方になると、日中それぞれあちこちに分散していたものが、ほしみ駅前にある大きな針葉樹の木に集まってきました。100 羽前後はいたと思われるが、盛んに鳴き交わしていました。

これらハクセキレイのほか、セグロセキレイも混ざっていました。

なお、このほか、今から 15 年ほど前だったが、緑地の中を流れる星置川の中流部(JR 函館線付近)で、キセキレイも見られたこともありました。

これらハクセキレイを中心としたセキレイ類は、近年、本当に少なくなっていました。

<ノビタキ>

草原の歌い手を代表する鳥の一つでもあるノビタキも、かつては当公園近くにあった畑の周辺に多数いました。まだ、その頃は西公園も設置されていない上、住宅もそれほど多くはありませんでした。5 月の中下旬頃、畑もしくは草原のあちこちに、その美しい囀りを響かせていた。スズメほどの大きさの鳥です。これら畑等が宅地等に替わって行って、全く姿を消してしまいました。

何処に行ってしまったかと言うと、その一部だと思われるが石狩海岸の草原の所で見かけるので、そちらの方に移動したかもしれません。

(山猿)

「あの鳥達はいずこに!? (後編)」は次号の 146 号に掲載予定です。



(編集後記)



11月3日の北大イチョウの観察会に出かけた際に、須田さんがテレビ取材を受けている様子を写真に撮らせていただきました。理事会で「須田さんの指導員の様子は見ておいた方がいいよ」とのアドバイスをいただいて、グッドタイミングの参加になりました。



さて、2月の理事会で総会後の講演会を実施することが決まり、チラシ作成を行いました。500部用意できました。今回、会員の皆様に送付したところです。チラシに使った写真は、小樽なえぼ公園のトドマツ並木の中にあるハート型の樹洞（ウロ）です。このような大きな穴が開いても木の生命は強いものだなと思います。協議会ができて40周年なのでそれで記念講演会としています。お楽しみに！



今年の冬は、1月は比較的暖かく雪も少なく過ぎましたが、2月に入りほぼ例年通りの積雪量となりました。

小樽と言えば「ニンシ」3月上旬まで水揚げがあるので、なかなか市場にニンシが並ばずどうしたものかと思ったらトドが網をやぶって網の中のニンシを食べているとのこと。祝津のトド岩にトドがきているかなと・・・。近々祝津に行つて来ようと思います。（松井）



雪明かりの路



連絡先等

保険料	郵便為替口座 02770-9-34461
観察会北海道自然観察協議会のホームページ	https://www.facebook.com/prof:le.php?id=61561462946121
会計・寄付	郵便為替口座 02710-1-8768
会計	会費振込加入者名 北海道自然観察協議会 山形 誠一 山形 誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14
観察会担当会計	小川 祐美 〒047-0155 小樽市望洋台3丁目13-5 TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp
観察会報告書・資料	観察部 山形 誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14 TEL/Fax 090-6267-4961 E-mail seiichitaraxacum@gmail.com
退会・住所変更	事務局 松井 典彦 〒047-0021 小樽市入船4丁目17-19 TEL 090-3113-3421 E-mail nykd-matsui.poteto@nifty.com
投稿・原稿	編集部 村元 健治 〒006-0852 札幌市手稲区星置2-8-7-30 TEL/Fax 011-694-5907 E-mail cin55400@gmail.com
事故発生等緊急時	ケイティエス 担当 本間 茂 TEL 011-873-2655
表紙写真	大表 章二 鏡沼 撮影日 2024年5月 撮影地 倶知安旭ヶ丘公園



自然観察 2025年3月15日/第145号 年3回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)

発行 北海道自然観察協議会
編集 北海道自然観察協議会編集部